

香川大学瀬戸内国際芸術祭推進活動

代表者 原田 理紗子 (経済学部地域社会システム学科3年)

1. 目的と概要

このプロジェクト事業の趣旨は、「香川大学生が瀬戸内国際芸術祭に、芸術祭の成功、香大生として地域貢献、観光交流の推進のために、情報発信、芸術祭スタッフ、こえび隊活動等で協力する」というものである。

(※こえび隊…瀬戸内国際芸術祭の公式サポーター)

取り組みの目的は以下の3点に貢献することである。

- ①芸術祭の成功 (人々の芸術祭への関心の向上、こえび隊不足の解消、ガイドとしての活躍)
- ②香大生として地域貢献 (アートを通じて地域の魅力発信、瀬戸内・高松地域の活性化、地域の中で大学が身近な存在に)
- ③観光交流の促進 (県外から多くの人々が訪れる機会を生かす、地元の人間の視点で地域の魅力の伝達)



小豆島で地域の方と空き家清掃、集合写真

2. 実施期間 (実施日)

平成22年5月1日 から 平成23年10月31日まで
(芸術祭実施期間・・・7月19日から10月31日まで)

3. 成果の内容及びその分析・評価等

このプロジェクト事業では、こえび隊の本部と連携し、香川大学のこえび隊の活動拠点となって活動を行った。メンバーは1～4回生69人である。活動内容は、芸術祭開催までと開催中に分けられ、主に以下の6つの活動である。



芸術祭開催まで

- (1) 広報活動
- (2) こえび隊としての活動
- (3) うみあかりプロジェクト

芸術祭開催中

- (4) 男木島での活動
- (5) 島めぐり研修
- (6) いってラッ隊プロジェクト

(1) 広報活動

- ・学内で計5回プレゼン

(経済学部ゼミ、教育学部代議員会、一年生200人が出席する授業)

・ホームページ作成・・・ブログで活動告知、報告

・FMサンラジオ録音(6月9日)→13・15・16日 ラジオ放送

・FM高松ラジオに生出演(7月1日)

・オープンキャンパスで高校生にプレゼン(8月1日)

・大学祭のホームカミング日でプレゼン(10月31日)

この結果、多くの香川大学生に、地元で開催される芸術祭に関心を持ってもらうことができた。

10数名で始めた活動も69名まで大きくなり、

一つの活動の影響も大きくなった。更に、ラジオやオープンキャンパス等を通して外部の人にも、芸術祭の魅力と共に、香川大学生の活動を伝えることもできた。



(2) こえび隊としての活動

・こえび隊体験ツアーの実施

この活動は、香大生でまとまって島に行き、作品制作・空家掃除など、芸術祭の準備に参加するというものである。この活動の目的は、まだ芸術祭ボランティアを知らない香川大学生に、このツアーをきっかけに私達の活動に参加してもらうことがひとつ、また、こえび隊香川大学分室に登録していても、あまり島の活動に参加できていないメンバーに島を訪れる機会を増やしてもらい、活躍の場を持ってもらうことである。



王文志作品「小豆島の家」

王文志作品「小豆島の家」
材料となる竹の切り出し作業

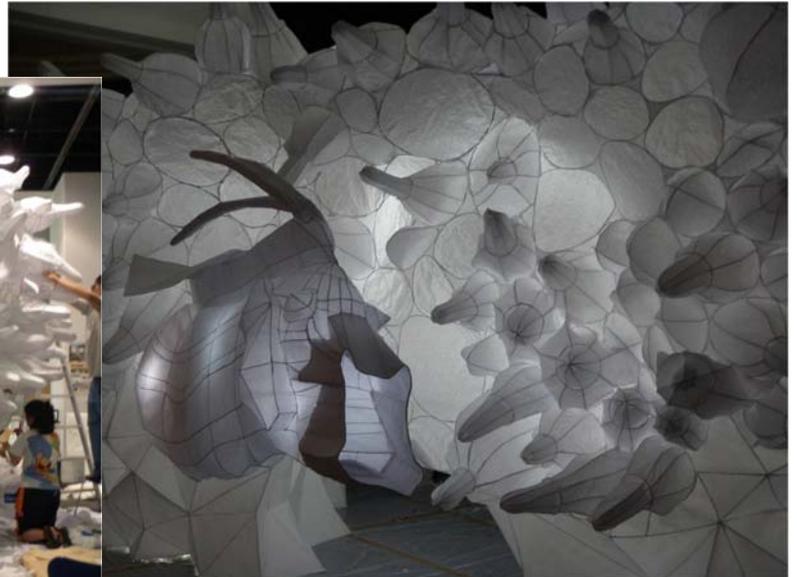


香川大学内のこえび隊分室で活動するのではなく、実際に島に通い、現場を体験することができた。作品制作に携わることで、芸術祭の準備に直接貢献することもできた。

この活動は6・7月の水・土・日曜日に実施した。計15回、延べ60人のメンバーが参加し、芸術祭の準備に携わった。

(3) うみあかりプロジェクト

あなぶきカレッジとの共同制作に参加した。毎回作業日にメンバーに呼びかけ、作品制作に携わった。下図は作業風景と、完成した作品の写真である。



(4) 男木島での活動

8月(19日以降)と9月全日、香川大学生が毎日欠かさず男木島に通い、作品ガイド・受付に携わった。約20人のコアメンバーを中心に、全体のメンバーに日々呼びかけ、多くの香川大学生が島での活動に参加した。

作品受付では、他の活動で培った作品や島の知識を活かし、訪れる人に芸術祭をより楽

しんでもらうことに貢献できた。また、毎日同じ島の作品を担当することで、香川大学のメンバーも愛着がわき、モチベーションが上がり、島・作品への知識も深まった。そしてその知識を活かし、また作品ガイド・受付に取り組むことで、充実した活動ができた。活動中は、他のボランティアスタッフ、島を訪れる観光客、島の住民たちと交流を持つことができた。



男木島の風景

(5) 島めぐり研修

8・9・10月に、月に一回、島めぐり研修を行った。(8月：豊島、9月：小豆島、10月：直島)

私達は、芸術祭の広報活動や、こえび隊のボランティア活動など、島での様々な活動を行ってきた。そのなかで、この島めぐりは、こえび隊香川大学分室に登録していても、あまり島の活動に参加できていないメンバーに島を訪れる機会を増やしてもらい、



豊島ガイドツアーの様子

また、こえび隊香川大学分室のメンバー一人ひとりが集めた情報を実際に島に行くことによって再確認・再発見し、計画を立てたメンバーはアート作品ガイドの練習を行う場とした。それによって、私たち自身がもっと島の魅力を知り、今後のアート作品ガイドを行う上での事前研修とするために行った。

特に、小豆島・直島、人気があり混み合う島であるが、私たちこえび隊の活動範囲がとても狭い島である。他の島で活動していても直島について聞かれることが多い中で、その島々のアート作品について知る必要性を感じた為、実施した。そして、そこで得た知識やその島の魅力、島の人々の暮らしを、瀬戸内国際芸術祭に訪れてくれる人に伝えていくことができた。

(6) いってラッ隊プロジェクト

「出船入船プロジェクト」という港から出ていく船を送り出し、入ってくる船を迎えるというイベントがあった。その一部、毎週土曜日の朝のイベント「いってラッ隊プロジェクト」に、香川大学生が参加した。毎週メンバー全員に呼びかけ参加者を募り、9月・1



0月の毎週土曜日の朝、小豆島行き
のフェリーをお見送りした。お客さん
同士にカラーテープを持ってもらい、
見送るお客さんと、島に行くお客
さんを繋ぐ役割を香川大学生が担
った。毎回5分間のマイクパフォー
マンスを行い、そこでは、私達が感
じている島の魅力や、芸術祭を運営
している時の裏話、高松市の魅力的
な場所の紹介などを、これから島へ
渡るお客さんたちに伝えた。最後、
陸側からの「行ってラッ隊—！」と
いう掛け声に「ってきます！」と
返事をくださり、人の繋がりを実感
できるイベントであった。地域の方
も皆、進んでイベントに参加され、
喜んでいただくことができた。



4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を実施した
ことにより、大学としても芸術祭に
貢献できたと考える。「地域に根
ざした学生中心の大学」として、地
域に密着した活動をしているとい
う評価にもつながったのではない
かと感じている。特に「男木島で
の活動」と「行ってラッ隊プロジェ
クト」では、毎日、毎週土曜とい
う継続的な活動ができた為、貢献
度も高まったと考えられる。また、
大学内の学生に対しても、多くの
広報活動により、芸術祭の魅力
を伝えられた。芸術祭の価値を
伝えることにより、芸術祭に携
わる香川大学生を増やすことが
でき、地域貢献に繋がったと考
える。



また、地域社会に対しても、芸術祭への関心を高めることに貢献できた
と考える。活動を始めた当初、県内への広報活動があまりできていない
という問題点があった。私達は、チラシを作ったり、こえび隊の新聞を配
ったり、ラジオに出演することで、芸術祭自体の広報、ボランティアス
タッフの募集などに貢献できた。また、私達、年の若い学生が島に通
い、地域の方とお話しすることは、地域の活性に繋がると喜んでいただ
くこともできた。更に、作品のガイド・受付をする中での観光客との対
話により、観光交流も推進できたと考える。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

この活動では、普段の学生生活では関わることの少ない、異なる環境・年齢の方と関わる機会が多く、大変貴重な経験だった。自分と違う価値観を持つ方と触れあい、様々な価値観を知り、考えの幅が広がった。地域に入ることで、地域の方、芸術祭スタッフ、観光客などに関わりを持ち、コミュニケーション能力が育成された。

また、はじめは十数人で、何も無いところからスタートだったが、一つ一つ準備を進めていくことで、最後まで芸術祭のサポートに携わることができた。芸術祭という大きなイベントの中でも、少しでも芸術祭に貢献できたことに本当に達成感を感じた。規模の大きい行事で、何が出来るか分からなくても、まずはチャレンジしていくことが大切であると学んだ。当初の目的に挙げていた、「積極性・行動力を高める」ことを、身をもって体験できた。

更に、芸術祭をガイドする為、情報収集を行ったことで、私たち自身も瀬戸内海・高松の魅力に対して、理解を深めることができた。瀬戸内海の島々に訪れた観光客の方々から、逆に地元の魅力を伝えられることも多く、大変勉強になった。



公民館での王文志さんの歓迎会に参加させていただいた時の様子

6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

私たちの活動は、10月31日の芸術祭終了に合わせて終了・解散した。93万人が訪れ、大成功した瀬戸内海の大イベントの一部運営に携われたことに、大きな喜びと達成感を感じている。反省点としては、活動の中心が2・3年生となってしまったことである。芸術祭は3年後も開催されるため、1年生をもっと巻き込めていたら、今の1年生が4年生となった時にも何か繋げられたのでは、という反省点がある。

今回の活動は、色々な人と関わりを持つ、本当に充実した経験となった。地域の人と深く関わりを持つことができた。今回の経験で得た知識やその島の魅力、島の人々の暮らしを、地元大学生として、これからも何らかの形で伝達していきたいと感じている。



芸術祭に関わったとして、四国新聞に載った写真

7. 実施メンバー

代表者	原田	理紗子（経済学部3年）		
構成員	白井	あかり（経済学部3年）	与田	有紗（経済学部3年）
	古川	麻奈美（経済学部3年）	長通	卓也（経済学部3年）
	山川	宰（経済学部3年）	永田	卓哉（経済学部3年）
	田中	美帆（経済学部3年）	能願	晶子（経済学部3年）
	久保	由希乃（経済学部4年）	福井	陽子（経済学部2年）
	松岡	菜織（農学部1年）	佐藤	正隆（農学部2年）
				他

全69名